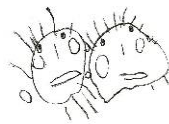


# いっぽ だより



2022年度 No. 2

はじめのいっぽ

2022年5月27日

緑がいっそう鮮やかさを増してきた今日この頃、皆様お変わりございませんか。

5月は総会・理事会（書面会議）があり無事に終了することができました。ありがとうございました。今春からいっぽに通所している子どもたちは「学校」に「いっぽ」にと、少しずつ慣れてきて、毎日のリズムもできてきたようですが、これからも私たちスタッフがしっかりとサポートしていかなければと思っています。

いよいよ緑と触れ合う季節になりましたが、先日新一年生の男の子が摘んでいるタンポポを見せてくれました。どこにでも咲いているから見向きもしないが、野花をきれいと感じる子どもの感性の豊かさがみられ、大事なことを子どもから改めて教えられたようでした。

スタッフもうかうかしてられません。畑仕事の達人である長崎先生が中心となり、いっぽの広場や敷地周り、途別のビニールハウスなどに、花や野菜の種まき、苗植えと忙しくなっています。花は心を癒してくれ、野菜は収穫の喜びがあります。今年はウクライナの国花でもあるヒマワリを歩道沿いに蒔く予定です。花の開花や秋の野菜の収穫を楽しみに、日々手をかけ育てて行けばきっと応えてくれると信じて、子どもたちと一緒に見守っていきたいと思います。

また5月からは、数年前までボランティアで来てくれていたあちこち紙芝居の皆さんに来て頂き、子どもたちに楽しい時間をお届けできるようになりました。今後も月に2回ほど継続していければと考えています。

新型コロナウイルスも、まだまだ感染が続いていますので、気を緩めず感染対策の徹底に努めてまいります。



代表 石橋 和久

## 防災訓練についてパート2

5月16日、職員定例会議に於いて、現実を見据えた災害時の対応を話し合いました。ガラスが散乱したときどうしたらいいの？ 冬場の暖はどうしたらいいの？ 担当者が休みの時はどうしたらいいの？ 等々考え始めたらキリがありません。すべてのスタッフが、すべての災害行動を理解し、誰がどのような状況でもリーダーとして判断できるスキルを身に着ける防災訓練にしなければいけないと再徹底され、次回の実践訓練へとつなげて行くこととなりました。子どもたちを守るべく最善の取り組みを日夜心がけております。

## 6月のスケジュール

日 時	行 事
6月 6日 (月)	ミーとメーの毛刈り
6月 7日 (火)	あちこち紙芝居
6月11日 (土)	嵐山登山
6月20日 (月)	定例会議 (3回目職員避難訓練)
6月24日 (金)	あちこち紙芝居

## 小中学生編



5月は、途別のいっばに通う機会が多くなります。フキノトウから始まり、行者ニンニク、ワラビ、ウド、よもぎ、畑にはニラと体に良いおやつ材料がいっぱいです。

また、いっば広場では、春らしいシャボン玉が飛びかいます。低学年、高学年、大人も参加して一斉に飛び立つシャボン玉の中、ひつじたちは春の新鮮な草を一心に食べています。それに付き添う優しい子どもの姿が見られたり、年代を越えた関わりに癒しの時間が流れたり、学校を終えた後の過ごし方としては最高なのかな？と思っています。

また、金づち持ってトントンとくぎ打ちにはまっている子どもたち。上達すると、物を作りたくなってきます。廃材使って打っていると、長さを合わせたくなりノコギリを使いたくなります。少しずつですが興味が興味を呼んで成長していく子どもの姿はたくましくもあり、全身全霊で応援してあげたくになります。



## ピザ作りの火起こし

ピザ作りでは簡易の窯で焼くのがいっばの伝統！子どもだけで火おこしをしてもらいましたが、喧々諤々、昨年度のリーダーたちも高校へと進学してしまい、新しいリーダーがいません。一切大人の口出しなしでスタートしましたが、かなりハチャメチャな状態でした。さて、今年一年かけて成長してくれることを願いスタッフは声を出してしまいそうになるのをグッとこらえるのに必死でした。



## あちこち紙芝居再開

コロナ前は、月2回ほど開催していた“あちこち紙芝居”今月より再開することとなりました。大きな絵本の読み聞かせや、手品、腹話術、そしてワクワクドキドキの紙芝居・・・正しい日本語、忘れ去られようとしている美しい言葉をいっばい披露してくれています。

再開できるようになって本当に良かったと、子どもたちの真剣な眼差しが語っています。これからもよろしくお願いします。



## ひつじ組 編 (午前未就学児)



何かに挑戦しているとき、“こんなこともできるんだよ！”と必ず大人の顔を見てきます。そして、大人がちゃんと自分を認めてくれているか確かめ、また次の挑戦へ向かっていきます。



いっぽの広場は発見することだらけ！



又、じっくりと木を登ったり下りたり動き回っているアリを指さし、大人の顔を見て“これなあに？”と、まだ思うように話せなくても、大人が「ありさん、頑張ってはたらいっているね～」と答えてくれることで、子供は自分自身を信じられるように育っていきます。



2歳児、3歳児、4歳児。年齢はバラバラだけど、仲間関係は確実に育っております！

安心できる相手だからこそ、バットの取り合いはできるし、一緒にブランコにも乗って揺られたい。自分の分の食べ物も分けてあげられるし……。

みんなと一緒にご飯を食べるのが楽しみ！今は好き嫌いのことは気にせず、“みんなと食べるのがたのしい～！”と思えるようにと考えております。



## 泥だらけ砂だらけになるという事



子どもの頃、泥だらけでうちに帰った時、叱られた経験ありますか？それでもやめられなかった泥遊び。泥と水、砂と水の量で、どんな変化が起こるのか体が覚えています。

靴の中に入った砂の違和感、しまいに裸足で遊んでいた感触……どれもこれも大切な経験だったと今になると思うのです。そんな体験をいっぽでできればと考えます。